

トラツリアブ

岡山県：留意

ハエ目

Anastoechus nitidulus (Fabricius)

環境省：該当なし

ツリアブ科

選定理由

ユーラシア大陸には広く分布する種であるが、国内では松村松年が初めて紹介した当初（1915年）からまれな種とされている。本県では倉敷市で1947年に採集された記録があるのみであったが、2005年に同市内の別の場所で撮影された生態写真がインターネットに掲載され、国内では1991年以来、確認例が途絶えていただけに、大きな反響を呼んだ。その後も異なる場所での発見も伝えられているが、岡山県以外では確認情報がなく、絶滅に追い込まない留意が必要である。

存続を脅かす要因

湿地開発、草地開発、産地局限、その他（生息地の踏み固め等）

分布状況

県内の状況は瀬戸内沿岸丘陵・山地の一部に限られている。

県外では、大阪、兵庫、三重、山口、愛媛の府県で記録され、九州にも確認情報がある。国外ではユーラシア大陸に広く分布。

生息情報

体長10mm前後。*Anastoechus* 属のツリアブはバッタ類の卵鞘に寄生することが知られているが、国内の本種がいずれのバッタを寄主としているかは明らかにされていない。これまでの発見地は人の出入りが少ない、路傍に草花が咲く明るい山道、小規模な湿性の草地等である。成虫は晩秋に出現する。

文献番号 9, 47, 204, 222

(青野 孝昭)



撮影：青野 孝昭



ハチモドキハナアブ

岡山県：情報不足

ハエ目

Monoceromyi pleuralis (Coquillett)

環境省：該当なし

ハナアブ科

選定理由

コナラ、アベマキなどの樹液付近で目撃されることがあるが、個体数は多くない。

存続を脅かす要因

森林伐採、林相変化、土地造成

分布状況

県内では都窪郡、倉敷市、赤磐市など主に県南部の丘陵地から記録されている。

本州、四国、九州およびロシア極東部に分布。

生息情報

体長20mm内外。ドロバチ類に擬態している。触角は付け根の部分が長く伸びており、また腹部第2節は強くくびれている。成虫は2～6月に出現し、コナラ、クヌギ、アベマキなどの樹液によく飛来する。

文献番号 162, 169

(近藤 光宏)



撮影：近藤 光宏

